

●百瀬 近い将来、東海・東南海地震が必ず起こるといわれていますが、今回の震災で多くの教訓を得ましたね。

●前村 小売業として一番重要なのは情報と物流。それから必要な物資を輸送する体制を整えておくこと。復旧体制と従業員の援助体制の確立、従業員の地震対応ガイドラインの改訂など、対策と対応の見直しを今一度、徹底的に行います。そして、日頃から地域で頼りにされることで、災害時や緊急時に喜ばれる活動ができると思うのです。

エコ・ファースト企業としての果敢なトライ

●百瀬 震災後は今まで以上に節電が要求されています。当社もエコ・ファースト企業として節電に努めていますが、お客様への「節電ライフ」も呼び掛けています。

●前村 5月18日には「エコ・ファースト2011年夏の節電の約束」をエコ・ファースト企業24社と一緒に、環境大臣と交わしました。これは7月～9月の最大使用電力15%削減を目指すものです。特にユニーはお客様の節電意識の醸成も小売業としての大切な役割だと考えています。震災後いち早く「節電ライフ」のコーナーを設置し、節電の方法や節電対応商品などを紹介したカタログをお客さまに配りました。

●百瀬 カタログは10万部つくりましたが、想像以上の早さでなくなりました（笑）。環境省にも持参しましたが、大臣にも興味をもっていただけたようです。これをきっかけに、消費者の商品の選択や電気の使い方は変わるでしょうか？

●前村 変わると思います。すでに節電に役立つ商品は前年比の200%～300%で売れています。こういう商品を充実させて需要喚起につなげられればと思います。

●百瀬 「エコ・ファースト企業」ユニーでは、低炭素社会を目指したCO₂削減効果の高いエコストアを建設しています。2011年秋には愛知県蟹江町に「食品スーパー」のモデルストアがオープンします。

●前村 ピアゴ蟹江店、1977年にユーストアの1号店としてオープンしました。店のコンセプトはローコスト経営でした。店舗の建設費を安くする分、商品も安くしましょう。その店舗を今回は「エコストア」をテーマに34年ぶりに建て替えることにしました。省電力、CO₂削減は3～4割を目指しており、自然採光、太陽光発電、壁面緑化、地熱利用、そしてLED電球の全面使用など、現在

効果があるといわれるものをかなり採用しました。

●百瀬 ピアゴ蟹江店での取り組みは、2020年までにCO₂を25%削減する「チャレンジ25」達成に向けて、今後何を導入していくかの実験店舗でもあります。この店舗で実際に効果のあったことは次の店でも導入していきます。これまではエコストアを目指して従業員とお客さまが一緒になって、レジ袋を使わないお買い物や使用済み容器包装の回収リサイクル、店舗から出るゴミのリサイクルといった「循環型社会」への取り組みを一生懸命やってきました。そこにCO₂発生抑制に効果のある設備も加わって、持続可能な未来型店舗が船出するわけです。

●前村 今の子供たちが大人になった時にも、環境に優しく地域社会に貢献している店づくり。これをお客さまにも見ていただけて、どこをどう工夫したかを知っていただくことも社会貢献の一つかな。

●百瀬 目に見えるというのは大事ですね。例えば店頭で、消費電力の数値や取り組み状況の案内を設置して、見て興味をもってもらえるようにしたいですね。

●前村 それ、いいですね。来年は中国出店も控えています。中国でもやはり「エコ・ファースト企業」として率先して取り組みたいね。これも地域社会への貢献ですからね。

サステナブル企業として社会貢献を

●百瀬 さらに社会貢献活動でいうと、WFP（国連世界食料計画）協会参加企業として、ユニー全店で毎月第一日曜日に、また本社や地区事務所では店長会議や大きな会合がある時などに「ポケットの中のワンコイン」を寄付して、アフリカやアジアの子供たちに学校給食を食べてもらおう」という活動をしています。すでに4年目です。また、授産施設の皆さんがつくるワインやリデザインプロジェクト（p47）にも取り組んでいます。

●前村 多治見の修道院にある授産施設で、障がいの方たちがブドウづくりから始めてワインをつくっているわけですが、これがすごくおいしい。ユニーではチャリティーという形だけでなく、自分の労働で得た賃金をもらう喜びを知ってもらうことで自立支援のお役に立てればと販売させていただいています。

●百瀬 またリデザインプロジェクトは、愛知県尾張地方の繊維産業で不要となって廃

棄される生地を寄付してもらい、授産所で縫製した製品を販売支援するものです。デザインを服飾の専門学校の学生さんに依頼し、未来のデザイナー達の応援もしています。こうした製品は慈善目的のチャリティーとしてではなく、ユニー商品の品質基準をクリアし、センスの良い製品づくりのために、商品開発や品質管理は通常の商品と同じ過程を経ました。その結果、使いやすくデザイン性にも優れているとして『日経デザイン』が取り上げていただきました。これは小売業本来の事業の中で、環境・福祉・教育面で貢献できたと、意義を感じています。でも、一番うれしかったのは、授産所の皆さんに冬のボーナスを出すことができたことと喜んでいただいたことです。頑張ったことへの報酬は次の頑張りにつなげられると思いました。

●百瀬 最後に、皆さんへ社長からのひとことを。

●前村 ユニーは、すでに、次の100年に向かう段階に入っています。だからこそ、もう一度、小売業としてのユニーが事業の業績を向上させるだけではなく、地球環境を守り、企業としての社会貢献を果たし、地域から信頼される企業としての付加価値を高め、それをお客さまに評価していただける事業活動に反映させる。立ち止まっていたは衰退しかありません。常に企業価値を高めていることを行動で示し、その評価を受けとめさらに向上を目指すことで、持続可能な企業になれる。そのことを従業員一人ひとりが心に留め、前へ進めるユニーでありたいですね。



代表取締役社長 前村哲路（左）、
環境社会貢献部長 百瀬則子（右）



東日本大震災復興支援活動に対して
社会福祉法人東北福祉会より感謝状授与